教育協働ノススメ

～学校×地域でより良い学びを実現するために～

きょういく - きょうどう【教育協働】

学校や社会教育施設等の教育機関と、地域団体や NPO などの市民組織が協力して教育実践をつくり出すこと。その際、学習目標を共有し、それぞれの強みを活かして、相乗効果を生み出すことが求められる。

学校・生徒のメリット

- コミュニケーションの力がつく
- 達成感を得られ、自信がつく

色々やってみて気づいたけど、いろんな人に助けられているんだなって思った。
（高１／男）

人前で話すことにも、大人と話すことにも臆さなくなりましたね。
（高校教諭）

自分たちでものごとを決めて進めていくことって大変だけど、楽しい！
（高１／女）

NPO のメリット

- 社会課題への共感が広まる
- 活動を知ってもらえて、仲間が増える

現場に出て地域の課題に触れてみることで、リアリティが持ってもらえたように思えます。
（NPO 職員）

「大人になったなぁ」と思います。自信がついたように見えます。
（行政職員）

地域社会のメリット

- 地域が若返り、元気になる
- 次の地域の担い手が育つ

エネルギッシュな様子を見ていると元気が出てくるね。
（地域住民）

彼ら／彼女らの感動が、まちの風景と一緒に思い出に残るといいなと思うんです。
（地域住民）

教育協働のあれこれ

case 1 ゲストティーチャーを呼ぶ

～県職員と考える、兵庫の未来～

必要時間　1コマ～
お手軽度　★★★
教育協働度　★

30年後を展望した「兵庫づくりの羅針盤」である「21世紀兵庫長期ビジョン-2040年への協働戦略」についての理解を深め、兵庫の未来をともに考えるため、兵庫県企画県民部ビジョン課職員が学校に赴く「出前講座」が実施されています。「21世紀兵庫長期ビジョン出前講座」と題し、クイズなどを交えて兵庫県・地域の現状や直面する課題や未来について考えます。

○実施内容
・ビジョン課職員による講演「21世紀兵庫長期ビジョンについて」（地域の現状や課題）
・高校生とビジョン課職員との意見交換

case 2 既存のプログラムを活用する

～地域の人との交流で学ぶ、修学旅行での震災学習～

必要時間　半日～1日
お手軽度　★★
教育協働度　★★

阪神・淡路大震災を乗り越えてきた地域の方たちと交流する中で、震災について学ぶプログラムです。主に修学旅行生を対象としたプログラムとして実施されています。生徒は、実際に震災を体験した方とかかわり、生の声を聞く中で、「震災に負けないくらし」について理解を深めます。

○実施内容
・地域の方に教わる炊き出しの実践（午前）
・地域の方との交流プログラム　（午後）
■プログラム例
語り部からお話を聞く（地域、商業、避難所について）、防災訓練、まちあるきなどへの参加

実施前には、丁寧にヒアリングを行うようにしています。「日程、時間、人数、学校の体制、修学旅行中のスケジュール」といった基本的なことはもちろん、「学習の目的（何を学んでほしいか、何に触れてほしいか）」といった根本的な部分についても聞かせてもらっています。また、「過去の学習の内容と成果」や「阪神・淡路大震災についての事前学習の有無と内容」なども聞きながら、学校で学習している内容とできる限り関連づけ、よりよい学びが得られるよう調整するようにしています。
（NPO法人神戸まちづくり研究所 東末真紀さん）

他にもこんな事例が！

○「公害病患者さんのお話を聞く会」（1コマ）
大阪府立西淀川高等学校×あおぞら財団

大気汚染によって、ぜん息などの公害病になった住民から、病気の苦しみと空気をきれいにするための裁判について話を聞きました。市民として社会に働きかける大切さを学びました。

○「クラスづくりワークショップ」（半日）
兵庫県立加古川南高等学校×マザーアース・エデュケーション

クラスにファシリテーター（学習促進者）が数名ずつ入り、参加体験型の学習方法で「思いを形にする」をテーマにクラスづくりに取り組みました。

case 3

1（いち）から一緒に創る

～兵庫県立兵庫高等学校×神戸市長田区役所×長田区の方々～

必要時間　1学期間
お手軽度　★
教育協働度　★★★

学校設定科目「創造基礎」において、「長田のまちの未来を創造しよう！」をテーマに地域課題研究に取り組んでいる兵庫県立兵庫高等学校。身近な地域の課題に触れ、その解決方法を考えて地域に提案し、実現するという過程を通じて、社会科学的分野の学びや地域貢献を実現しようというものです。

■まちの課題を聞く（4月）

・地域の実情に通じた区役所の職員から地域課題の現状を聞く
・ふりかえりを通じて、「なぜそうなるのか？」という疑問を引き出す

※「全国平均に比べて高齢化が深刻で、祭りの担い手も高齢化している」「若者がまちなかに出て来ない」といった、長田区の現状について具体的な数字を示しながら紹介されました。

■テーマについて深め関わりたいものを選ぶ（5月）

・「自分ならどのテーマに関わりたいか、何ができそうか」についてディスカッション
・取り組みたいテーマとその理由をグループ毎に決めて発表

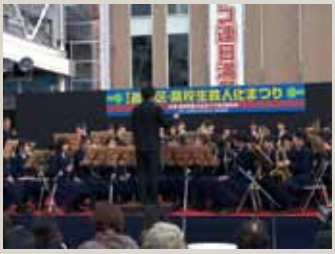
※ここでは、長田の祭りや中心市街地活性化などが研究テーマに挙げられました。

■まちに出て活動する（フィールドワーク）（6月）

・各々の研究テーマに合ったフィールドワーク先の選択、アポイントメント
・フィールドワーク先を訪問して話を聞き、実際に活動

■活動例

＊古くから残る丸五市場のオリジナルソングをつくりミニコンサートを実施
＊地域の七夕祭りの実行委員会に参加し、よりよい祭りをつくるためのニーズ調査のアンケートを担当
＊ NPO 法人 KOBE 鉄人 PROJECT の「三国志祭」にスタッフとして参加



■「創造基礎」発表会（6月）

・取り組む中で考えた課題解決の方法をまとめ、発表
・区役所職員や地域の方からの講評

※これらの活動を、複数回の授業に分けて合計 10 時間程度かけて行いました。

地域に出た生徒が得た学びとは？

「創造基礎」を受講した生徒は地域に関心を持ち、授業期間が終わった後も自主的に活動するなど、大きな成長を遂げました。市場で実施されるイベントや地域の餅つきにも多くの生徒が参加しています。中でも印象深いのは、長田区役所と NPO 法人 KOBE 鉄人 PROJECT が募集した「鉄人まちづくりイベント」企画において、1 班の生徒を中心に提案した「高校生鉄人化まつり」が最優秀賞を受賞、翌年 3 月にこのイベントが実現したことです。2013 年 3 月の実施で 3 回目となります。この取り組みを通じて感じるのは、「学校外の方々の力も借りることで、より教育効果は高まる」ということです。地域の方々との関わりがあったからこそ、こうした生徒の成長が生まれたのだと強く実感しています。

大前吉史 先生
（兵庫県立兵庫高等学校）

兵庫高等学校「創造基礎」の教育協働のポイントはどこにあったのか？その詳細はウェブページでご覧いただけます。
詳しくはこちら
→ http://active-citizen.jp/planning/erc.html

ステキな教育協働を実現するための

チェックリスト

これまで見てきた事例で明らかな通り、教育協働の実践によって単体では難しい生徒の成長を実現することができます。そのポイントをチェックリスト形式でまとめました。ステップを経ながら、生徒の成長になり、地域社会貢献にもなる学びをデザインしていきましょう！

Step1「協働相手を見つける」

まずは「何をするのか？」よりも「なぜ、どこまでするか？」を明らかにした上で協働相手を探しましょう。

- □生徒にどのような学びや成長を得てほしいのかが、明らかになっている
- □得てほしい学びや成長に関連して「これまでに取り組んだこと」や「到達点」が整理されている
- □「一緒にやってみたい」という人や団体がいれば、思いを伝えて丁寧にお願いしてみる

※市町の社会福祉協議会や教育委員会の学校支援コーディネーターなどに相談するのもよいでしょう。

Step2「事前」

「なぜするか」が整理できて協働相手が見つかったら、互いに議論しながら「何をするか」を決めましょう。

- □「生徒に得てほしい成長」や「これまでに取り組んだ学習内容」「到達点」を整理して協働相手に共有する
- □協働相手に「お任せ」せず、一緒に丁寧に学習内容を検討する
- □協働相手の事情を考慮しつつ実施までのスケジュールを立てる

Step3「実施」

生徒の学習意欲を引き出し、教育効果を高めるための工夫を重ねましょう。

- □協働して学ぶ内容について、生徒が事前説明を受けたり学習する機会を設ける
- □一方的なレクチャーだけではなく、参加型や体験型の学習要素を取り入れる
- □生徒の学びを確かなものにするための「ふりかえり」の機会を設ける

Step4「評価」

「やってよかった！」で終わらせずに、実践を通じて得られた教訓や協働相手との関係性を今後につなげましょう。

- □協働相手と一緒に評価の機会を持ち、課題と改善点を明らかにする
- □「何をしたか」を記録するためではなく、今後よりよい協働を実現するための「まとめ」をつくり、協働相手や次の担当者と共有する
- □協働相手に感謝の気持ちを伝える

もう一歩踏み込むヒント

教育協働を実践するためには「6W3H」（Why：何のために、How far：どこまで、for Whom：誰に対して、What & How：何を、When：いつ、Where：どこで、Who：誰が／誰と、How much：いくらで）を決める必要がありますが、学校もしくは協働先だけで作り込みすぎないことが大切です。互いの強みを活かせるように「Step1」が整理できたら、できる限り早い段階でその内容を共有しましょう。

協力者一覧　（敬称略・五十音順）

ERC 委員会

大滝　あや（Tao 舎 ）
大前　吉史（兵庫県立兵庫高等学校）
大本　晋也（兵庫県教育委員会）
荻田　藍子（兵庫県社会福祉協議会）
川島　憲志（フリーランス）
川中　大輔（シチズンシップ共育企画）
東末　真紀（NPO 法人神戸まちづくり研究所）
松井　寛泰（兵庫県社会福祉協議会）

事例掲載

西　修（神戸市長田区役所）
林　美帆（あおぞら財団）
平田　晋作（兵庫県）
前田　賢治（神戸市長田区役所）
正岡　健二（NPO 法人 KOBE 鉄人 PROJECT）
松木　正（マザーアース・エデュケーション）

※所属は 2012 年当時のものです。

教育協働の実際に関する調査結果をウェブで公開中！

シチズンシップ共育企画・ERC 委員会では、教育協働の実態を明らかにするための調査活動を行ってきました。下記のサイトよりその調査結果を公開していますので、ぜひご覧ください！
→ http://active-citizen.jp/planning/erc.html

■掲載資料
- 「学校と外部組織の協働に関するアンケート調査報告書」
- 「学校と NPO の教育協働の実践課題に関する調査報告書」

2013 年 6 月　発行

発行：シチズンシップ共育企画

〒 661-0965　兵庫県尼崎市次屋 1-2-20　ハイツアメニティⅡ -203
TEL：070-6506-0369　E-mail info@active-citizen.jp
URL http://active-citizen.jp/

編集：Tao 舎

イラスト ©鈴木 陵